

ピース シリアをまた行きたい国に

改めまして、いつもご支援、本当にありがとうございます！皆様のご支援のおかげで、シリアの子ども達に教育と希望を届けることができています。

今回、新スタッフの紹介をさせていただきました。とはいえ、私を含めてボランティアのメンバーで、本業と並行しながら活動に従事しています。

シリアの戦争は10年目になりましたが、戦闘状況や経済制裁の中で大変な日常が続いています。一方で、シリアについての報道は減っており、シリアの人たちへの支援も減少傾向にあると聞きます。このような状況を受けて、より安定的な支援の継続が必要だと考えて、新たなスタッフと共により活発な活動、そして法人化を目指して動いてまいります。

そして今、全世界に影響を与えているのが、新型コロナの感染拡大です。シリアだけでなく日本も含めた世界が、今までの常識が通用しなくなるような価値観を揺るがす変化の渦中にいます。「私たちができることはなんだろう」ということをこれまで以上に考えて、より良い世界を皆さんと一緒に創っていければ幸いです。「シリアをまた行きたい国にする」という団体の目標を目指して、これからも歩んで参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



Piece of Syria代表 中野 貴行

Special Thanks

【スタッフ】石井 貴幸、佐々木 颯、白井 郁乃、鈴木 のどか、武田 祐輔、中野 貴行

【イベントスタッフ】阿比留 高広、アルガザリ 夏江、和泉 羽美、石富 東、入江 謙行、井関 裕、上原 優紀、岡田 のどか、甲斐 千香子、金澤 結香、久保 浩、小夏 栗本 瑞恵、坂井 安奈、讃井 祐美、鈴木 雄太、園田 楓、田中 優花、辻 克朗、中西 萌、中村 宜熙、西原 早苗、西村 佐保、野村 明弘、藤山 美律、濱田 朱莉、広瀬 隆、溝渕 京子、向井 雪菜、森谷 香純、吉田 明子、鷺巣 仁美、和田 真世

【後援】絵本作家 陣崎 草子 様(報告書 扉絵、リターングッズ)

株式会社「アレppoの石鹸」様、「ターメルコーヒー」様(リターングッズ)

ハラル神戸ビーフレストラン「Nagomi」様(写真展会場、ラマダン支援)/えほん&スナック「うずしお」様、「こととは那珂川」様、「Spiins cafe」様、中東雑貨のセレクトショップ「CHAKA」様、「日大国際たんぽぽ」様、Social Book Cafe「ハチドリ舎」様、アフリカ・アジア布をつかった雑貨と洋裁店「MIHARUKA」(イベント)

【Special Supporter】田村 公祐さん、井上 千春さん、内田 瞳さん、太田 昌興さん、オング ロジャーさん、小松原 有子さん、陣崎 草子さん、首藤 崇宏さん、田川 登美子さん、蓮見 直さん、藤原 大さん、

古井 美千子さん、王 響葉さん

And all of you...

書き損じハガキや切手を集めて
教育を届けるプロジェクト始めました

ハガキ
2枚で



子ども
1人の
3日分の
教育費に



サポーター限定
Facebook
コミュニティも
始めました

Check!!



Piece of Syria



下記で支援を受け付けています。

ゆうちょ銀行
口座 ビースオブシリア
店名 408(ヨンゼロハチ) (普)4328753

<https://piece-of-syria.org/whatyoudo>

写真展・講演・取材 などのご依頼は

サイトまたは上記メールアドレスよりお願い致します。振込みにて、ご寄付をいただいた場合も、報告会などのご案内をさせていただきますので、ご一報いただければ幸いです。



活動報告書
2020年4月

شكراً

ありがとう。

あなたのおかげで、
私は今、学校に行くことができます。



2019年度 活動成果

シリア



シリア国内の子ども達200名に 温かく安心して学べる環境を

かつてシリアは教育レベルが高く大学まで無料。ほぼ全ての子ども達が学校に行くことができました。しかし戦争の影響で教育を受けられない子ども達も。一人でも多くの子ども達が学べるように、継続的に支援を続けています。(詳細は次ページに)

トルコに住むシリア人女性に 保存食ワークショップ

シリアの家庭料理に欠かせない食材といえばトマト! トルコで難民として生活するシリアの女性達に向けて、現地NGOに材料と加工する機材を提供して、女性達がビュレにしました。値段が上がる冬に売ること、自分たちで使うこともできます。



トルコ

日本



全国で講演会・写真展を実施 「シリアの今と昔を伝える」

大阪 難波にあるハラル 神戸 ビーフレストラン Nagomiさんがラマダーン月の休業期間中にスペースを提供いただき写真展を実施しました。大阪・東京・福岡・札幌・広島・愛知など、各地で報告会・イベント・学校での講演会を実施しました。

パートナーNGO代表からのメッセージ

ご支援、ありがとうございます!

子ども達に代わって、心からの感謝をお伝えしたいのですが、どのように感謝の言葉を伝えれば良いか、わからないほどです。皆様のご支援のおかげで、3年以上にわたって幼稚園の子ども達が学ぶ環境が守ることができています。理不尽な暴力にさらされた子ども達が、それでも教育を続けることができるのは皆様お一人おひとりのお力添えのおかげです。未来のシリアを創る子ども達は、皆様に守られています!



現地パートナーNGO
A Little Help is Enough代表
Usama Ajjan

元英語教師でアレップ大学 英語学科卒業。在学中、日本語を学ぶ。卒業後、小中高で英語教師として働く。現在はトルコに住み、シリア国内の教育支援を行なう[A Little Help is Enough]代表を務める。大きな団体からの支援もなく、時に私財を投げ打って活動する姿に感銘を受け、2016年よりPiece of Syriaとして協力関係を結ぶ。

新スタッフからのメッセージ

昨 年よりPiece of Syriaに仲間入りしました。鈴木のかです! 旅と世界各地の音楽や美味しいものに目がない会社員です。

2017年、NGOのインターンでヨルダンに滞在し、難民として移住してきたシリア人の方々の心のケアの活動に携わっていました。そこではイスラム文化の奥深さ、溢れんばかりのおもてなしの心、そして絶品アラブご飯の虜になってしまいました! それと同時に、シリアの人々が故郷を思い口々に言う「帰れないシリアがいかに美しい国だったか」「シリアが戦争の国でしかイメージされなくなってしまったのは悲しい」という切実な思いに心打たれました。

帰国してからもシリアとの繋がりを模索していた最中、友人に誘われてふらりと訪れたPiece of Syriaの写真展で中野さんと出会い、「シリアを行きたい国にする」「ワクワクしながら社会を変えたい」というコンセプトに強く深く共感しました。気付いたらその時の写真展で出会った人たちとの間で新たなコミュニティ(アラ人)も立ち上がり、楽しく関わらせてもらっています!

スタッフとしては、団体の広報やイベント企画などやっています。「学生時代は国際協力に関わっていたけれど社会人になってからはなかなか...」という私のような人が活躍できる場所を作ったり、いつか皆でシリアにスタディーツアーに行くのが目標です^_^

普通に暮らしていたらあまり直接関わることはない、シリアのこと。毎日の生活からちょっと視野を広げて、遠い国の人の人生を良くするお手伝いが出来たら私たちの人生ももっと満たされると思っています。そんなことを考えながら関わっていきますので、どうぞよろしく願いいたします!



イベント企画・広報
鈴木のか

初 めまして! 2020年よりメンバーとして活動しています、佐々木颯(はやて)と申します。2018年にNGOの海外インターンでヨルダンに行ったときにシリア難民のお手伝いをして以降、中東の文化や難民に興味を持つようになりました。あるイベントで中野さんがシリアの昔の話をしていたのでからはシリアにも関心を持つようになり、Piece of Syriaのボランティアもさせていただきました。私のPiece of Syria内における役割としては、NPO法人化に向けた手続きを実施したり、団体がさらに活動できるようにファンドからの資金調達を実施したりしていくことです。まだまだ産まれたてのぼやぼやの団体ですので、Piece of Syriaが大きく成長していくためには皆様の温かいご支援と愛情が必要です。

今後とも皆様が、子どものお父さん、お母さんみたく当団体の成長を一步後押しして頂きますと幸いです。

ファンドレイジング
佐々木颯

収入

ReadyFor 217万円
ご寄付 43万円
イベント収益・物販 20万円

支出

シリア活動費 155万円
トルコ活動費 17万円
ReadyFor手数料 43万円
諸経費 65万円
(リターン・会場代・国内交通費・講師謝礼)

2019年度 収支

シリア国内への教育支援

未来を創る子ども達に、教育と癒しを

シリア北部、3～7歳が通う、200人規模の幼稚園。
アレッポ郊外にある幼稚園で働く先生達のお給料をサポートしました。
給料がない状態が続けば、先生達が仕事を辞めてしまい、幼稚園が閉鎖になる可能性もありましたが、皆様のおかげで運営が継続できました。
幼稚園の役割は、基礎教育だけでなく、心のケアの役割としても大きな意味を持っています。厳しい状況の中で、教育の重要性が見失われることもあります。しかし、学び、自分を解放できる場所があることで、子ども達は笑顔で希望を持てるようになると思います。そうした子ども達がいることは、地域の大人達にとっても希望となっています。



氷点下にもなる冬に…

ストーブと灯油で温もりを届けました！



シリアの冬は氷点下にもなります。ストーブと燃料がないと教室はあまりに寒く、幼稚園に通うことを諦めてしまうこともあり、越冬支援はとても大事です。特に今年は、寒さのあまりに泣き出す子もいるほどでしたが、皆様のご支援で、ストーブの灯油と、500人の子ども達に冬服を送ることができました！

17,200\$

先生のお給料16人(月75\$)、教室、越冬支援

2011年3月から続くシリアの戦争は、10年目になった今もまだ、落ち着いてとは言えない状況で、今なお空爆や戦闘のニュースが届きます。
私たちが支援する幼稚園のある地域(アレッポ県郊外・イドリブ県)にも、シリアの他の県から多くの家族が避難してきたそうです。



生徒増に対応するため…

教室を届けました！



シリア全土から幼稚園のある地域に多くの人たちが避難してきた結果、地域に住む子どもの数も増え、100人が定員の幼稚園にも希望者が殺到しました。当初は遊具のある校庭にテントを建てて対応していましたが、それでは冬の寒さに対応できません。そこで、コンテナの教室を送り、安心して温かな環境で勉強できるようにしました。

先生からの メッセージ

子ども達の笑顔という成果

継続的に価値ある支援をしていただき、ありがとうございます。皆さんのおかげで、子ども達が笑って過ごせる日々という成果をもたらすことができました。
状況はとても厳しいですが、子ども達は描いた夢に向けて、まっすぐに頑張ることができます。私たちは、あなた達の優しさに溢れた思いやりに、心から感謝しています。
皆様にとっても、素晴らしい未来が訪れますことを、願っています。

Najwa Aughrli先生(ZILAL幼稚園)



トルコでの活動

トルコに住むシリア人女性向けに

トルコは、世界で最もシリア人を受け入れている国です。

トルコ政府は、トルコに住むシリア人に対して、IDを発行して、シリア人は無料の教育・医療を受けることができます。しかしながら、母国語のアラビア語と異なるトルコ語で授業が行われる授業についていけなかったり、イジメなどを理由に学校に通わせたくない親、通いたくない子ども達も。

そうした状況に対応するために、トルコのNGO【Education Without Border】が運営している補習校では、基礎学力の向上や地域のトルコ人の子ども達の交流の場を作っています。その補習校に、トルコの大学に留学中だったHさんが訪問。日本語を教えてもらって、子ども達に楽しんでもらいました。

同団体では、学生向けの授業だけでなく、シリア人女性のエンパワメント授業（英語、トルコ語、ICT）も実施しています（託児所もあります）。その活動の一環として、ワークショップに使う機材と材料を提供し、シリアの家庭料理に欠かせない食材であるトマトをピューレにしました。値段が上がる冬に売れることも、自分たちで使うこともできます。



1,000\$

保存食を作る材料・加工のための機材

写真展とラマダーン支援

ラマダーンとは、イスラム暦の9月を意味します。この1か月間、ムスリムの人達は日の出から日没まで断食（スウム）を行います。日没になると飲食が解禁され、家族だけでなく近所の人や通りすがりの人まで巻き込んで食べる「イフタール」が行われます。

シリアの人から「全世界で、貧しい人もお金持ちも平等に食べられない大変さを知り、飲食の大切さを味わえる、大好きな1か月だ！」と幾度となく聞きました。しかし、長引く戦争による物価の高騰や失業などから、私たちが支援する幼稚園の生徒たちも、楽しくイフタールを楽しめない状況がある、と現地から連絡が届きました。



日本での「伝える」活動

講演・イベント

大阪・東京・福岡・札幌・広島・愛知などで講演を実施しました。

「シリアの人たちがいかに困っているか」だけが伝えられることが多い中、「戦争が起こる前の平和なシリア」を聞く機会は限られています。私たちとそう変わらない日常があったことを知っていただくことで、シリアを身近に感じてくださったり、平和の大切さに改めて気付き、私たちの支援の重要性について知っていただく機会をつくっています。

小中高校、大学、社会人向けなど様々な場所で行ないました。「また来て欲しい」と毎年声をかけて下さることも多いです。報告会などのイベントスタッフへの参加や、講師派遣のご依頼がありましたら、是非お声がけくださいませ。今後はオンラインでの発信も充実させていく予定にしています。



イベントを実施し、収益を寄付するチーム「アラ人（ジン）」も発足。トークイベントや料理教室などを実施しました。

2019年5月、難波にあるハラール神戸ビーフレストランNagomi様から、「ラマダーン中は、日中に食事ができないので、お店をお休みにするので、写真展をしませんか？」とお声掛けをいただき、Nagomi様ご協力の下でシリアの写真展とラマダーン支援を実施。シリアの子ども達が、大切なイフタールを楽しむことができました。



シリアの子ども達から、一生懸命作った、感謝のメッセージが届きました

1,200\$

イフタール支援：シリア(700\$) トルコ(500\$)